

ライタックス減速機は、均一荷重・1日10時間の運転条件の下に設計されています。

1日10時間を超えて運転される場合や、使用機械の負荷条件によっては、次の負荷係数を見込む必要があります。

負荷係数の選定は負荷の性質により、次の①または②の方法に分けられます。

① 機械別負荷性質による選定

【負荷係数の区分】 U：均一荷重 M：軽衝撃 H：重衝撃

表 C4 減速機の負荷係数

運転時間	～3時間/日			～10時間/日			～24時間/日		
	U	M	H	U	M	H	U	M	H
負荷係数	0.80	1.00	1.50	1.00	1.25	1.75	1.25	1.50	2.00

表 C5 機械別負荷性質表

圧縮機・ポンプ コンプレッサ 往復動式 多気筒 M 単気筒 H ポンプ 遠心式 U 可動翼式 M 往復動式 単動3シリンダ以上 M 復動2シリンダ以上 M 回転式(ギヤタイプ、他) * 運搬・物上げ機械 エレベータ バケツ均一荷重 U 重荷重 M エスカレータ U フライト M 乗客用・作業用 * 水門ゲート * カーダンパ H カーブーラ M クレーン・ホイスト 主巻 中荷重 M 重荷重 H スキップホイスト M 桁走行・トロリ横行 * コンベヤ(均一荷重) エプロン・アセンブリ・ ベルト・バケツ・ チェーン・フライト・ オープン・スクリュ コンベヤ(重荷重・変動送り) エプロン・アセンブリ・ ベルト・バケツ・ チェーン・フライト・ オープン・スクリュ レシプロ・シェーカ ストーカ U ドライドッククレーン * フィーダ ディスク U エプロン・ベルト・スクリュ M レシプロ H 混合機械 アジテータ 純液体 U 液体(密度変化) M 液体と固体 M ミキサ 密度一定 U 密度変化 M コンクリートミキサ M	選別機械 クラシファイヤ M スクリーン 回転式(石・砂利) M 空気方式 U トラベリングスクリーン U 粉碎機械 クラッシュヤ 鉱石・石 H ミル(回転式) ボール・ベベル・ ロッド・ハンマ } H キルン } タンブラ H サンドミューラ M 印刷機 * 洗たく機 M 工作機械 ねじ立盤 H パンチプレス(ギヤ駆動) H プレナ H ベンディングロール M 一般工作機械 * ゴム・プラスチック 押出機 ロッド・パイプ・チューブ U ブロー成形機 M プレプラスチック M その他 * ミキサ H ラバーカレンバダ M ラバーミル(2並列以上) M シータ・リファイナ M チューバ・ストレーナ M クラッカ H ドライヤ * しゅんせつ機 ケーブルリール・コンベヤ M カッタヘッド駆動 H ジグ駆動 H スクリーン駆動 H スタッカ・ウィンチ M	食品 精米機 U ビートスライサ M ダウミキサ M ミートグラインダ M ドライヤ * 醸造・蒸留 罐詰機・びん詰機 U ブルーケトル(連続) U マッシュタブ(連続) U クッカ(連続) U スケールホッパ(ひんぱんな始動) M 製紙 エアレータ * アジテータ M パーカ補助用(水圧式) M 機械式パーカ M ドラムパーカ H ビータ・パルパ M 漂白機 U コンベヤ U コンベヤ(原木用) H カッタ・プレータ H シリンダ M リール(パルプ用) M チェスト M ウォッシュヤ・シクナ M 抄紙機 クーチ M サクシヨソール U プレス U ドライヤ M カレンダ M スーパカレンダ H ワインダ U 製鉄 ブライドルロール駆動 H スラッグブッシュヤ M ドローベンチ(台車・主駆動) H 成形機 H スリッタ M テーブルコンベヤ * ピンチドライヤ・スクラパロール * 伸線機・圧延機 M 線材巻取機 M リール(ストリップ用) M	精糖 ケーンナイフ M クラッシュヤ M ミル H 製油 チラー M パラフィンフィルタプレス M ロータリキルン M セメント ドライヤ・クーラ M セメントキルン * 繊維・紡織 バッチヤ・カレンダ・カード 乾燥機・ドライヤ・染色機 マングル・ナッパ・パッド M スラッシュヤ・ソーバ・ワインダ 紡糸機・幅出機・洗布機 布仕上機 M (洗濯機・パッド・幅出機・ ドライヤ・カレンダなど) 船舶 はしけん引機 H ウインドラス * かじ取機 M キャプスタン・カーゴウィンチ * ムアリングウインチ * ターニングギヤ * 陶業 煉瓦プレス・練炭機 H パグミル M 一般陶業機械 M 水処理 クラリファイヤ U バースクリーン U ケミカルフィーダ U コレクタ U 脱水スクリーン M スカムブレーカ M ミキサ M シクナ M バキュームフィルタ M エアレータ * フロキュレータ M ロータリスクリーン U 木工業 *
--	--	---	---

*印および表中に記載されていない機械についてはご照会ください。

注) 実際にご使用になる機械と本表の名称・機械性質が異なる場合がありますので、選定時には参考値としてご使用ください。

② 始動・停止頻度による選定

始動・停止頻度と減速機の負荷係数（表 C6）を目安に選定し、同時にモータの許容熱容量をご確認ください。
（ご使用されるモータの説明書をご参照ください。）

表 C6 始動・停止頻度と減速機の負荷係数

始動・停止頻度 (回/時間)	～3時間/日			～10時間/日			～24時間/日		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1以下	0.80	1.00	1.30	1.00	1.15	1.50	1.20	1.30	1.65
～3以下	0.80	1.00	1.35	1.00	1.25	1.60	1.20	1.40	1.70
～10以下	0.80	1.20	1.45	1.00	1.35	1.70	1.20	1.50	1.80
～60以下	0.80	1.30	1.55	1.00	1.45	1.75	1.25	1.65	2.00

$$\text{慣性モーメント (GD}^2\text{) 比} = \frac{\text{入力軸換算負荷の慣性モーメント (入力軸換算負荷の GD}^2\text{)}}{\text{モータの慣性モーメント (モータの GD}^2\text{)}}$$

- 負荷係数の区分
- I : 許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 0.3
 - II : 許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 3
 - III : 許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 10

- 注) 1. 始動・停止頻度と負荷係数の値は、プレミアム効率モータによる運転の場合です。
始動トルクが 250% 以下のモータの場合は始動・停止頻度を多く、または負荷係数を小さくできることがありますので、ご照会ください。
2. トルク、ラジアル負荷がかかった状態で始動される場合には、別途検討が必要な場合もありますのでご照会ください。
3. 始動・停止頻度と慣性モーメント (GD²) 比が、上記の値を超える場合は、ご照会ください。